

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300444		
法人名	医療法人敬和会		
事業所名	グループホーム那賀川たんぽぽ		
所在地	徳島県阿南市那賀川町今津浦71番地の1		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、安全に、安心して生活が出来るよう心掛けています。四季折々の花や行事、食事等で季節を感じて頂き、ドライブ、買い物、お誕生会、おやつレク、ボランティアの慰問、婦人会や子供センターとの交流会等の行事も多く取り入れて楽しんでいます。運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、家族や地域の方の参加があり意見交換を行っています。地域の祭りや運動会等に積極的に参加し、また事業所の行事に招待して交流を図り地域と協同して暮らせるよう努めています。食事は旬の食材を使い利用者一人ひとりの嚙下状態や体調に合わせて提供し季節の料理や好みに応じて献立を作成して利用者に喜ばれています。自然に恵まれ静かな環境で穏やかに暮らして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に田園地帯の広がる環境に位置している。事業所では、利用者が家庭的な雰囲気のなか、地域行事へ参加したり、買い物や外食等を楽しんだりしている。定期的なボランティアの来訪があり交流を行っている。また、事業所は、災害時の避難場所として指定を受けており、利用者や地域住民の安全確保に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に月1回「高齢者の尊厳をお守りし、家庭的な暮らしをお手伝いします。地域の皆様と連携し地域に貢献する事を目指します」という理念を唱和し、全職員が共有し実践につなげている。	職員間での唱和は月1回と定めているが、日頃から、職員間で理念について話し合っており、共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の婦人会や子供センターと交流を図り行事等行き来している。また地域の秋祭りや文化祭、運動会に参加したり、地域の皆様に事業所の行事等に招待して利用者や繋がりを持てるようにしている。	事業所として、地域の祭りや文化祭等の行事に参加している。また、地域住民に事業所発行の広報誌を配布したり、手作りのおやつを提供したりして相互に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の祭り等の行事や、利用者ごと近所への事業所便りを配布をする等、日頃の近所付き合いを通じて地域の方への認知症の理解や利用者の暮らしぶりを知って頂いたり、意見を伺ったりして地域に貢献出来るよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の取り組みを報告したり、参加者と意見交換を行いサービスの質の向上に活かしている。また、参加者同士の交流の場にもなっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。多数の出席者を得ており、事業所の取り組みについて報告を行っている。会議時に話し合った内容は、職員間で共有し、サービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市担当窓口を訪問し事業所便りを届け、その際事業所の利用状況、活動状況等実情を伝え、情報収集や意見交換を行う等し、協力関係を築く様取りくんでいる。	毎月、市担当者に書類や事業所便りを届けたり、事業所の実情等を伝えたりしている。市担当者と意見交換を行う機会も設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容と弊害を認識し身体拘束をしないケアの実践に取り組み、安全確保の為やむを得ないと思われる場合は、家族と職員間で協議し同意書への記載を得た上で行い、随時拘束の解除に向け検討を行っている。	事業所では、職場内研修を開催したり、外部の研修を受講することのできる機会を設けたりしている。また、職員間で、身体拘束の内容と弊害について理解を促すようしており、玄関の開錠を含めて身体拘束をしないよう努めている。しかし、自傷行為のある利用者に関しては、安全確保の理由から行動上の抑制行為を行っている。抑制行為に関しては、家族の同意を得たうえで、抑止の解除に向けて専門医の受診も検討している。	事業所では、利用者の自傷行為に伴う安全確保の理由から、介護衣による行動上の抑制行為を行っている。家族の同意を得た上で実施しており、また切迫性・非代替性・一時性にも考慮しつつ、職員間で検討を行っている。今後も、利用者の身体的・心理的負担や、それに伴う家族の心理的状況についても再確認を続け、解除の実現に向けた協議を続けたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、虐待防止に関する研修などにより学ぶ機会を持ち常に話し合いを行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、施設内研修や資料により学ぶ機会を持ち必要とされる利用者が活用できるよう支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分に説明し、同意を得た上で理解、納得され契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や面会時、運営推進会議等の各種会議に家族等から出された意見や要望、苦情等は管理者と職員で話し合いサービスの質の向上に繋げ運営に反映させている。	家族に事業所の行事へ参加してもらっており、利用者や家族の意見・意向を把握するようにしている。出された意見は、全職員で話しあって運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日のミーティング時や月末の反省会等、常に職員と自由に意見交換できるよう努め、運営に反映させている。	事業所では、日頃からミーティングの機会を設け、職員の意見や提案を聞くようにしている。毎日、管理者から代表者へ報告を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、向上心を持って仕事できるよう配慮する等、働きやすい環境づくりの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を実施している。外部の研修にも参加し技術や知識を身につけ職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の参加等情報交換を行い、事業所の祭り等行事への招待をして相互訪問を行い交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で利用者本人に不安を解消し、安心して頂けるよう、話をよく聞き状態を観察してより良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者本人や、家族、ケアマネージャーと話し合いをし、要望や意見を聞き取り、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合いを行い必要な支援を見極め他のサービス利用も出来るよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をし、信頼関係を築き、何でも話が出来る、喜怒哀楽を共に出来る、家族の様な関係を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を図り、家族の意見と本人の意見が互いに反映され、共に利用者を支えていけるような関係をつくるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや行事に参加し、利用者行きつけの理美容店を利用する等馴染みの関係が出来るよう支援している。家族と外出したり、親戚、友人、昔なじみの人等の来訪があり交流を図れるよう努めている。	家族の協力を得たうえで、馴染みの理容店や商店への買い物等に出かけるなどして、一人ひとりのこれまでの生活習慣を大切に支援している。利用者の知人の来訪も多く、継続的に関わることが出来るよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者一人ひとりの性格や希望を把握するよう努め、孤立することなく共に生活することの楽しみを見出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、相談や支援を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりの中で利用者の言葉や表情を読み取り希望、意向の把握に努めている。声かけも積極的に行い話しやすい雰囲気を作っている。常に利用者の立場になって考え支援できるよう努めている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中で、会話や表情等から希望や意向を把握するよう努めている。また、家族からも情報を得るなどして、一人ひとりの暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集し、センター方式を利用してプライバシーに配慮しながら、職員が利用者や家族と良い関係を築いていくように努め、利用者が自分らしい暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者の心身状態を常に把握し、状態を記録し共有している。共に生活する中で利用者の有する力を見出し、活かせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週木曜日に家族を交えたカンファレンスを行い、出された意見や要望をもとに見直しして現状に応じた介護計画を作成している。	週1回、家族を交えてカンファレンスを行い、利用者の状況について話し合っている。利用者や家族の希望する暮らし方のほか、医師等の関係者の意見を介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個別ファイルを作成して日々の様子や状況、気づきを記録し全職員で共有し、職員間のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりのニーズに対応できるよう、家族との連携を図り、その時々合わせた支援やサービスが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと協同して利用者を支援し緊急時には地域の協力が得られる様、緊急連絡網も作成している。地域の行事に参加しており、地元の婦人会等とも親交がある。地域の資源を活かせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での受診を希望する利用者や家族が多く、これまでのかかりつけ医や歯科、眼科等受診する場合は家族や職員が付き添っている。協力医療機関の訪問診療があり緊急時の協力体制も整えている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。毎日、協力医療機関の往診がある。家族と連絡を取り合い、利用者が適切な医療を受けることができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態変化や異常の早期発見に努め、常に看護職や訪問看護師等に相談援助を受けている。訪問看護と24時間連携体制が整っており、暮らしの安全に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の連携が充実し、入院した際、家族と相談しながらケアについての話し合いを行い、安心して入院治療を受けれるよう努めている。早期退院や退院後の支援も充実している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療の指針が出来ており契約時に家族との間で重度化した場合の方針について説明を行い同意を得ている。段階ごとに、医師・家族と連携を図りながらより良いケアが出来るよう支援している。	契約時の段階で、終末期に関する事業所の考え方や方針を説明している。職員間で終末期医療の指針を共有し、本人や家族の意向を大切に支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が事故発生時には適切な対応が出来る様に、職員研修等で定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成し年2回に日中、夜間を想定した 防災、避難訓練を実施し、地域住民との協力体制を築いている。運営推進会議では津波対策等、災害時の話し合いを行っている。	年2回、地域住民の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。職員の行動や集合時間等を把握して、災害時の迅速な体制整備へと繋げている。事業所は地域の避難場所でもあり、日頃から地域との連携を深めつつ、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念のもと全職員で研修や話し合いを行い利用者の経緯や誇り、プライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている	職員は、利用者一人ひとりの気持ちを大切にされた支援を心がけている。日頃から、なるべく本人自身で自己決定することができるような言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から一人ひとりをよくみて、よく知るよう努め、利用者の希望や願いを把握し、また自己決定がしやすいように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気分や体調に考慮し、個々の生活のペースに合わせた支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容店等を利用して頂いたり、事業所に出向いて来てくれる美容師にカットしてもらおう等一人ひとりの好みを尊重しその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの物や旬の食材をとりいれ、職員と同じテーブルを囲み楽しく食事ができるよう工夫している。また能力に応じて調理や片付け等共に行っている。誕生会には利用者の希望を取り入れた献立を提供している。	事業所では旬の食材を活用し、利用者と職員で調理を行っている。利用者は、気分や体調等に応じて、下膳や机を拭いたり、野菜の皮むきなどを行ったりしている。利用者と職員で、ゆったりと和やかに食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立をたて、利用者の好みや、習慣、食事の様子把握しながら個々に合った食事の摂り方や食器の工夫をし、嚥下状態に応じてミキサー食や刻み食など摂りやすいように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを呼びかけ自力で出来る人には声かけと見守り、困難な人には介助を行っている。週1回歯ブラシ等の消毒、入れ歯洗浄剤を使い清潔を保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や、見守りにより一人ひとりの排泄習慣を把握し、なるべくオムツを使用せずトイレ誘導を行うことによりトイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を活用し、トイレへの声かけを行っている。立位が困難な利用者には、オムツを使用しつつも、トイレで排泄することができるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の状況を把握し、自然排便を促すため野菜を多く取り入れた献立や乳製品を毎日摂取出来る様工夫している。水分不足にならないよう配慮し、機能訓練等を行い運動量を増やすように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望や体調に合わせて浴槽につかれたいりシャワー浴や足浴を行っている。入浴を楽しめるような雰囲気作りに努めている。	利用者の体調や気分、希望に応じた入浴を支援している。見守り介助を基本としつつ、足浴やシャワー浴にも対応している。菖蒲湯や柚子湯も取り入れており、入浴を楽しむことができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣を重視し、自然な生活リズムが作れるよう毎日の過ごし方や、係わり方を見直し工夫し、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の服薬状況や目的を的確に理解し体調の変化等を把握して、服薬の支援に努めている。利用者一人ひとりの薬に関するファイルを作り共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じた役割を分担してもらい生活に張りを持ち個々に合った楽しみや、気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調に合わせて季節に応じた外出の支援を行っている。買い物やドライブに出かけたり、花見や地域の行事等に参加、また散歩や事業所の庭での外気浴等個々に応じた外出が出来るよう努めている。	利用者の体調や希望、天候にも考慮しつつ、一人ひとりの希望に応じて、買い物や外食等に出かけている。地域の行事にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、個々に応じたお金の管理方法を決め、買い物等にお金を使われている。好きなものや、必要なものにお金を使われるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得て、一人ひとりの能力に応じてプライバシーに配慮しながら電話をしたり手紙を出せる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭や玄関に季節の花を置き常に季節を感じる事が出来て、普段自宅で過ごされているような感覚で生活して頂けるような家庭的な雰囲気のある共用空間づくりを工夫している。	玄関や床の間に生け花を飾ったり、壁面には利用者と職員の作品を飾ったりしている。家庭的な雰囲気の中、季節感にも配慮した居心地の良い雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとり思い思いに談話コーナーや和室でくつろがれたり、テレビを見られたりしている。玄関や2階の踊り場にもソファを置き気の合う利用者同士で話をしたりして落ち着いた生活出来る様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んでもらい自宅の延長で生活して頂けるよう工夫し、畳の間や洋間等、利用者の好みや身体状況により利用者が居心地よく過ごせるよう配慮した居室づくりを行っている。	居室は、利用者の好みや身体状況に応じて、和室と洋室から選べる事ができる。居室に、利用者が自宅で使用していた家具や寝具を持ち込んでもらっている。利用者がこれまでの生活を続けつつ、居心地良く暮らすことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりに合わせた生活を送れるよう努め、個々に応じた環境を作れるように職員が常に話し合い、工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し実践に繋がっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの慰問や地域の行事への参加等により交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃の近所付き合いや事業所の行事等により地域の方に認知症への理解に繋がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方々との取り組み内容の報告や意見交換を行いサービス向上に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の活動の状況を報告をしたり、情報交換や指導を受け、協力体制を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容と弊害を認識し、危険があつたり健康に害を及ぼす場合のみ、家族と相談の上同意を得てやむを得ず拘束を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、職員に施設内研修で虐待防止に関する研修を行い学ぶ機会を多く持ち防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、施設内研修により学び利用者に対する活用の必要性を話し合い支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分に説明し同意を得た上で理解、納得され契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者から出された意見や要望は、面会時や運営推進会議で話し合い記録に残し運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング時等、常に職員と自由に意見交換できるように努め運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、向上心を持って仕事ができるよう配慮し、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員研修を行い全職員の質の向上に努めている。外部の研修にも参加し技術や知識を身につける様支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所の行事への招待等、相互交流を行い情報交換等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に不安を解消し、安心して頂けるよう、話をよく聞き状態を観察してより良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人や、家族、ケアマネージャーと話し合いをし、要望や意見を聞き取り、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合いを行い、必要な支援を見極め他のサービスも利用できるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活し、何でも話が出来、喜怒哀楽を共に出来る家族の様な関係を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との連携を図り家族の意見と本人の意見が支援内容に反映される様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、親戚等との面会の時間は決めておらず24時間可能となっており、希望に応じて宿泊することも出来る。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者一人ひとりの性格や希望を把握するよう努め、孤立することなく共に生活することの楽しみを見出せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりがその人らしく生活できるよう職員全員が利用者の立場になり考え支援できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を収集しセンター方式を利用してプライバシーに配慮しながらこれまでの馴染みのある暮らしができるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が常に利用者の心身状態を把握し記録に残し共有している。日々の気づきを大事にし利用者の有する力を見落とさないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週木曜日に家族を交えカンファレンスを行い意見を交換し話し合い、現状に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個別ファイルを作成し日々の様子や状況、気づきを記録し全職員で共有しサービスに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を図り、一人ひとりのニーズに対応できるよう時々に合わせた支援やサービスが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターと協同して利用者を支援し緊急時には地域の協力が得られるような体制を作っている。地域の行事等にも参加し地域資源と協同していくよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協同医療機関と24時間の連携体制が整い常に状態に応じた治療が受けられる。家族や本人の希望する医療機関を受診する場合は職員や家族が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状況の変化や気づきを、早期に看護職や訪問看護師に相談援助をし、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携が充実し、安心して入院治療が受けられることが出来る。家族等と相談しながら早期退院や退院後の支援も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は医師の指示の下、訪問看護による処置が受けられる体制を作っている。、契約時にターミナルケアが安心して受けられるよう説明し同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時に備え適切な対応が出来るよう、職員研修等で定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の理解と協力が得られている。防災計画を作成して年2回防災避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した声かけや対応ができるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを大切に信頼関係を作り、希望や願い、好みを把握できるよう努め自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた暮らしが出来るよう気分や体調に考慮して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容店を利用したり出張サービスを取り入れた支援を行っている。衣類交換時も本人の希望を聞き介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの献立や季節の食材を使い調理をしている。誕生会等のハレの日には時々に応じた行事食を作り食事を楽しんで頂いている。月2回のおやつレクは共に作り食べて楽しみの時間になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や疾病に考慮した食材や調理方法を取り入れ、介助方法や食器等も工夫して摂取しやすいよう支援している。水分補給も1日を通して確保出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを呼びかけ自力で出来る人は声かけを行い困難な人は介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄習慣を把握し利用者のプライドに配慮しながら声かけをし、トイレ誘導を行い自立への支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の状況を把握し野菜を多く取り入れた献立や乳製品を毎日摂取出来る様工夫している。機能訓練などを行い運動量を増やすように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの体調や希望に応じて、浴槽につかられたり、シャワー浴や足浴を行い個々に合った入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を重視し、一人ひとりに合った生活ができ安眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の服薬状況や目的を的確に理解し体調の変化等を把握し服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力に応じて役割を分担してもらい、家庭的な暮らしを継続できるよう支援し楽しみや気分転換が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や気分に合わせて外気浴をしたり。買い物やドライブ、外食等の外出の支援を行っている。家族と買い物や食事等の外出も楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合った上で個々に応じたお金の管理方法を決め、買い物等にお金を使われている。好きなものや、必要なものにお金を使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談の上電話をかけたり、手紙や年賀状のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床の間には季節の花を飾り、調理の音や匂いを感じて自宅の延長で生活が出来るよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが、和室やソファでくつろがれたり、共同空間の中で思い思いに過ごされるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室で日頃から使い慣れたものを持ち込んでもらい自宅の延長で生活して頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりに合わせた生活を送れるよう努め個々の身体状況に応じた環境を作れるよう話し合い工夫している。		